



荒川中だより

青い雲

教育目標 「めあてをもち 自分で考え ねばり強くやり抜こう」

令和7年度 第2号
令和7年5月14日発行
村上市立荒川中学校

いじめ見逃しゼロ強調月間

校長 西村 諭

木々の新緑が鮮やかな季節となりました。新学期が始まって一か月が過ぎましたが、ご家庭でのお子さんの様子はいかがでしょうか。「やるぞ」という気持ちでスタートはしたものの、連休明けはゆるみが出始めるものです。このような時は、私たち周りにいる大人の目配りや声掛けが大切になってきます。5月12日から始まっている「睡眠モニタリング週間」を活用して、お子さんの望ましい生活習慣の定着や改善に努めてまいりましょう。ご家庭でのご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

さて、5月は「荒川中いじめ見逃しゼロ強調月間」です。いじめは、生徒の心を将来にわたって深く傷つける人権問題であり、決して見逃してはいけない行為です。5月8日の全校朝会での校長講話からいじめ学習をスタートし、今月は全ての学年で「いじめ、命の大切さ、他を思いやる心」等の学習を行います。

いじめは、加害者と被害者だけではなく、いじめをはやし立てる観衆と、その周囲で無関心を装う傍観者を加えた四層の中で拡大していくという考え方があり、いじめの四層構造と呼ばれています。観衆や傍観者が、いじめの重大化を防ぐ大切な役割を担っています。昨年度は観衆、今年度は傍観者に視点を当てて、全校朝会で次のようなお話をしました。

いじめの場面では、私たちの心に「正義、悪魔、曖昧、俯瞰」の4つが作用します。

正義は、「いじめはよくない」「正しいものが大事だ」等の心です。悪魔は、「からかうと楽しい」「人がいじめられているのを見て楽しむ」心です。いじめの場面では、誰もが一瞬、両方の気持ちが湧いてきます。心の中で、正義と悪魔の心の葛藤がおきますが、その2つの葛藤を「ないこと」にする曖昧の心が作用します。いじめを見て「このままでいいのか」と思うけれど、曖昧の心が「まあいっか」「ここまできたら、もう変わらない」とします。このような空気が学級全体に漂うと、いじめが重大化します。

この状況を打開するのが、俯瞰する心です。状況全体を一步離れたところから見ているイメージです。全体を冷静に見ると「人が苦しんでいるのを見ていて楽しいのか」「このまま見過ごしていいのか」という違和感をもつことができます。そして、違和感を覚えたら、「自分ができる小さなこと」探しを行うことが大切となります。

自分ができる小さなことの例として、「ピンクシャツデー」を紹介しました。これは、ピンク色のシャツや小物を身に着けることで、いじめ反対の意思を示す運動であり、カナダで始まったいじめ反対の日です。国連は5月4日を公式日として宣言し、現在では約180の国や地域が実施しています。シンプルですが、強いメッセージをもつ運動といえます。

荒川中生徒会は、今年度の活動の3本柱の一つに「いじめゼロ」を掲げています。10月には生徒が主体となって「いじめ見逃しゼロスクール集会」を実施します。近くなりましたらご案内いたしますので、多くの皆様からご覧いただきたいと存じます。

今年度も、学校は家庭や地域と連携・協働するとともに、全校一丸となっていじめ見逃しゼロに取り組んでまいります。どうぞ、よろしくお願いいたします。